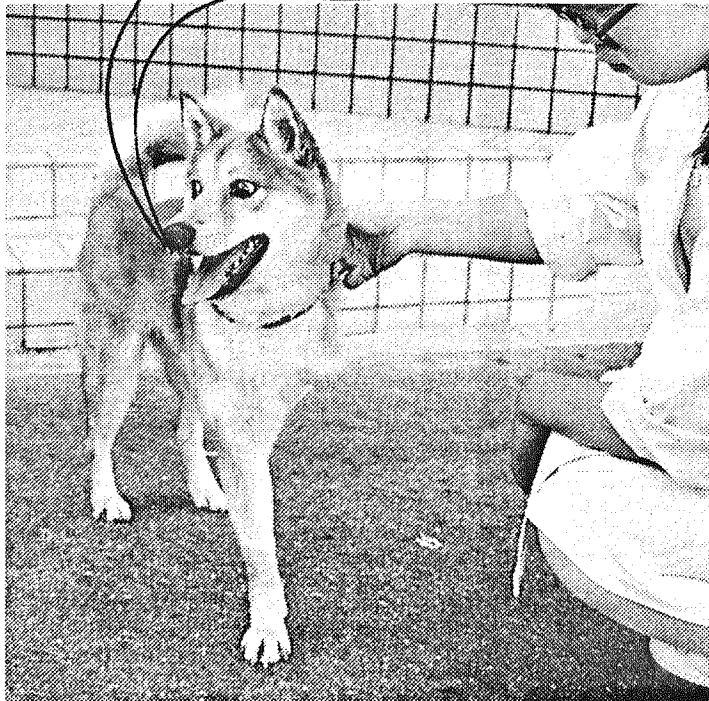


毎日新聞夕刊、
1989年(平成元年)
12月19日(土)

あんまりだワン!



左前脚を失う大けがから回復した犬の「チャチャ」
＝高石市西取石のワールド動物病院で

三本脚に飼い主知らん顔

電車事故
の雑種犬

ボクの名前は「チャチャ」。もとは飼いだつたらしい。この秋、電車にはねられて左前脚を失くしたけど、飼い主はさうとう、名乗り出てくれなかった。幸い、動物好きの人たちの世話で社会復帰のメドが立ち、新しい飼い主も決まって、温かい新年を迎えられそうだ。だけど、全国ではボクらの仲間が、一年に四十四万匹も処分されてる。一部の人の善意に頼って、片付く問題と違うんだけなあ。

善意の社会復帰したがが… 手当て

チャチャは十月二十九日正午過ぎ、大阪府高石市取石一院(院長)に収容。一時は生命も危険だったが、骨盤をブレイクで固定し、止血剤や抗生物質を点滴する治療が功を奏する大けがを負った。日本動物福祉協会南大阪支部(堺市南野田、葛城登志江支部長のメンバーらが現場近くの「ワ

チャチャはシバ犬系の雑種犬で、生後一年ほどのオスの成犬も増えるばかり。総理府の犬。首輪を付けていたことか、同支部では富木駅周辺に特徴を書いたチラシを張って飼い主を捜索。約二週間後に「よく似た犬が飼われていた」という情報でたぐり当てた人、電話連絡すると「うちの犬、かもしれないけど、脚が不自由になった犬は、もう飼う気がしない」と面会による確認を断られた。この冷たい対応に神前院長の知り合いの女性(三)が引き取りを志願し「チャチャ」と新しい名前を付けた。年明け早々に退院しこの女性の自宅に引き取られること、全国十一支部三連絡所に

とになった。関係者によると、犬は脚を一本失っても自然にバランスの取り方を覚え、全力疾走など激しい運動以外は健康な犬と同じ生活が可能。飼い主にも介護の負担はないという。弱者切り捨ての象徴、ペットブームの陰で、捨てられ、摘摘している。は一日平均で約百件の電話相談があり「引越すから処分したい」など、まるで壊れたおもちゃ扱いの相談が圧倒的という。同協会は「現代人の身勝手さや生命の軽視と弱者切り捨ての風潮を憂慮しているよう